

瀬戸内海から初記録のテングダイ

横川浩治・安部享利

テングダイ *Evistias acutirostris* (Temminck et Schlegel, 1844) は、スズキ目カワビシヤ科に属する中型魚で、南日本の岩礁帯域で普通にみられ、日本のダイバーにはなじみの深い魚種である。本種はこれまで瀬戸内海からの記録がなかったが(稲葉, 1963 & 1988; 清水, 1997)、今回初めて採集されたので、記載、報告する。

記載にあたって、計数、計測方法については Hubbs & Lagler (1970) およびその解釈(清水, 1995) に全面的に従った。脊椎骨の計数は軟X線写真により、腹椎骨と尾椎骨に分けて計数した。鰓耙は上枝と下枝に分けて計数し、鰓弓のちょうど屈曲部に位置する鰓耙は下枝の鰓耙数に含めた。

本論に入るに先立ち、今回得られたテングダイの標本を提供して頂いた仁尾漁協の小山雅司氏、標本登録に際してお世話になった徳島県立博物館の佐藤陽一博士、テングダイの生態写真を提供して頂いた伊豆海洋公園の益田一氏、文献の紹介および分類学的助言を頂いた神奈川県生命の星・地球博物館の瀬能 宏博士の各位にお礼を申し上げます。

テングダイ

Evistias acutirostris
(Temminck et Schlegel, 1844)
(Figs. 1 & 2)

材 料

1999年6月15日、香川県三豊郡仁尾町地先

の天神の磯に設置された小型定置網に入網した1個体で、全長290.8mm、標準体長229.0mm、体重611.7gであった。採集場所は瀬戸内海のほぼ中央部に位置する燧灘に面している。標本は徳島県立博物館に登録し、TKPM-P 7898の番号を取得した。

記 載

背鰭4棘25軟条、臀鰭3棘12軟条、胸鰭16軟条、腹鰭1棘5軟条、尾鰭主鰭条数17、側線有孔鱗数62、側線上方横列鱗数18、側線下方横列鱗数47、鰓耙数5+16=21、脊椎骨数13+13=26。

全長127.0%(標準体長の百分率、以下同様)、前肛門長65.0、体高63.9、体幅18.3、尾柄高15.0、尾柄長11.3、前背鰭長55.9、背鰭最長棘長32.5、背鰭最長軟条長56.4、臀鰭最長棘長17.5、臀鰭最長軟条長24.5、胸鰭長31.3、腹



Fig. 1. 瀬戸内海から得られたテングダイ。Striped boarfish *Evistias acutirostris* obtained from the Seto Inland Sea. TKPM-P 7898, 229.0 mm SL., 290.8 mm TL.

鱗長37.1、頭長33.2。

吻長60.0% (頭長の百分率、以下同様)、眼径27.1、两眼間隔幅36.1、眼下幅48.7、上顎長34.6、下顎長31.6。

体は強く側扁して体高は非常に高く、尾柄部は細い。体の背側面の輪郭は明瞭な弧状、腹側面の輪郭はほぼ直線状を呈する。尾柄部は短い。全身が中庸大の櫛鱗で覆われる。側線は1本で、後頭部の体中央から始まり、背側面の輪郭に沿って体側上部を後方に走り、尾柄部の直前で水平に曲がって尾椎骨末端付近で終わる。側線は完全に途切れず、側線有孔鱗はよく発達する。

眼は中庸大でほぼ完全な円形を呈し、眼球はよく膨出する。吻は細長く突出する。吻のほぼ中央部に2対の鼻孔があり、前鼻孔は皮弁を備える。吻端近くの上唇直上部に1対の感覚孔が開く。口は中庸大でやや上を向き、上顎と下顎はほぼ同長。両顎には多くの短い犬歯状の歯が幅広い歯帯を形成する。下顎の前下方面には短い肉質の髭が密生する。上唇と下唇は柔軟で、それぞれの前端的皮膚は絨毛状となる。

背鰭基底は非常に長く、腹鰭は胸位である。尾鰭後縁は截形を呈する。背鰭、臀鰭および腹鰭の棘は強く、背鰭第3、第4棘、臀鰭第2、第3棘および腹鰭棘は特に強大である。背鰭の軟条は非常に長い。腹鰭は長く、その後端は臀鰭始部を越える。頬部と鰓蓋部を除く頭部に細かい瘤状の隆起が密生する。後頭部と眼前部が突出するため、頭部前縁の輪郭は波状となる。前鰓蓋骨の下縁と後縁は鋸歯状を呈する。

生時の体色は観察できなかったの、参考に伊豆半島沿岸で撮影された水中写真を示した (Fig. 2)。固定後の体色は、淡褐色の地色に暗褐色の幅広い6条の横帯があり、第4、5条は斜行する。背鰭の下方3分の1は暗褐色で、腹鰭はほとんど真黒色である。

生息状況

瀬戸内海における生息状況については不明。後述する本種の分布域から本

種は太平洋の熱帯域に分布の中心を持つ暖海性種と考えられ、冬季の最低水温が7℃台まで低下する瀬戸内海に常在種として生息しているとは考えにくい。さらに、冒頭で述べたように、これまで瀬戸内海から本種の記録がなかったことからしても、今回の個体は何らかの原因により本来の生息域から瀬戸内海に迷い込んだ遇来種とみるのが自然ではないかと思われる。

最近、瀬戸内海には、メナガガザミ *Podophthalmus vigil*、ケブカツノガニ *Doclea ovis* (鍋島・西座, 1996a)、アマオブネガイ *Theliostyla albicilla*、キイロダカラ *Monetaria moneta*、ハナピラダカラ *Monetaria annulus*、ハナマルユキ *Ravitrona caputserpentis*、アカヒトデ *Ceratonardoa semiregularis*、イセゴイ *Megalops cyprinoides*、タマガシラ *Parascolopsis inermis* (鍋島・西座, 1996b)、ミヤコテングハギ *Nasolituratus* (横川・安部, 1997)、クロトガリザメ *Carcharhinus falciformis* (横川・山口, 1997)、ミドリイガイ *Perna viridis* (横川・鍋島, 1998) など、これまで記録のない暖海性生物の出現が相次いで報告されている。

これらの生物は、夏季に高温高塩分のために瀬戸内海が外海的な環境になり、外海の遊泳性魚類が潮流によって輸送されたか、底生生物の幼生が生残して発育したものと考えられている (鍋島・西座, 1996b)。また、瀬戸内海では、冬季の最低水温が年ごとに上昇傾向にあり、そのために南方産外来種のミドリイガイなどは瀬戸内海にほぼ定着したものとみられている (横川・鍋島, 1998)。今回得られたテングダイも、おそらくそのようにして瀬戸内海に遇来したものと推察される。なお、今回の個体が得られた時の漁獲場所における底層水温は17~18℃であり、後述の本種の分布域から考えると、本種が生息できる臨界水温に近かったものと推測される。

分布

日本における本種の分布域は、本州中部以南の南日本で (荒賀, 1985; 佐藤,

1986; 益田・小林, 1994; 望月, 1995)、特に伊豆諸島や小笠原諸島に多い (益田, 1980; 荒賀, 1985; 田口, 1994; 益田・小林, 1994)。沖縄 (琉球列島) ではほとんどみることができない。 (益田, 1980; 益田, 1992; 田口, 1994)。海外では、ハワイ、ロードハウ島、ニュージーランド、オーストラリアからケルマデック諸島などに分布する (Hardy, 1983; 佐藤, 1986; Hardy, 1990; Lieske & Myers, 1994; 望月, 1995)。

これらの知見から、本種は赤道をさんで中、西部太平洋域に広く分布するものと考えられ、日本はその分布の北限に当たるものと考えられる。

備考

本種は同科のカワビシヤ *Histiopterus typus* Temminck et Schlegel, 1844 に似るが、背鰭棘は後方のものほど長くなり、第3、4棘は背鰭前縁の長さに対して著しく短く、それぞれほぼ同じ太さであること (カワビシヤでは第3、4棘が著しく長く、それぞれほぼ同長か、前者が後者よりやや長く、前者は太い)、および臀鰭第2棘が臀鰭前縁の長さに対して著しく短いことで区別される (カワビシヤではほぼ同長) (Hardy, 1983; 波戸岡, 1993)。なお、Hardy (1983) は、本種の背鰭軟条数と脊椎骨数がそれぞれ26~28、13+14=27であるとしているが、今回得られた標本ではそれぞれ25、13+13=26と少ない値を示した。しかし他の形態的特徴に差が認められないことから、本報ではこれらを種内変異とみなした。

本種の未成魚の体色は、成魚とは異なり、体は透明感が強く、6条の淡褐色横帯に加えて不規則な暗色の虫食い模様が散在する。また、背鰭の後部には暗色の石垣模様があり、腹鰭の色は成魚に比べてかなり淡い (益田, 1992; 益田・小林, 1994)。

生態的には、40~250 mのやや深い海域の岩礁に棲み、行動は緩慢でじつとしいる (荒賀, 1985; 吉野, 1995; 望月, 1995)。ペアか少数のグループで行動するが (Lieske & Myers, 1994)、



Fig.2. テングダイ *Evistias acutirostris*, Izu Pen., 25 m depth. Photo by H. Masuda.

ときに大きな群を作るといふ (田口, 1994)。なお、本種は食用にもなり、味はかなり良いとされる (荒賀, 1985)。

引用文献

- 荒賀忠一. 1985. テングダイ. Page 150 in 小西和人編. さかな大図鑑. 週刊釣りサンデー社, 大阪.
- 波戸岡清峰. 1993. カワビシヤ科. Pages 799, 1332-1333 in 中坊徹次編. 日本産魚類検索: 全種の同定. 東海大学出版会, 東京.
- Hardy, G. S. 1983. A revision of the fishes of the family Pentacerotidae (Perciformes). *New Zealand J. Zool.*, 10: 177-220.
- Hardy, G. S. 1990. Tengu-dai, *Evistias acutirostris* (Temminck et Schlegel, 1842-1850). Page 282 in Amaoka, K., K. Matsuura, T. Inada, M. Takeda, H. Hatanaoka & K. Okada, eds. Fishes collected by the R/V Shinkai Maru around New Zealand. Japan Marine Fishery Resource Research Center, Tokyo.
- Hubbs, C. L. & K. F. Lagler. 1970. Fishes of the Great Lakes Region. xv + 213 pp., 44 pls. Univ. Michigan Press, Ann Arbor.
- 稲葉明彦. 1963. 瀬戸内海の生物相. 352 pp., 6 pls. 向島臨海実験所, 広島.
- 稲葉明彦. 1988. 増補改訂瀬戸内海の生物相II. 475 pp. 向島臨海実験所, 広島.
- Lieske, E. & R. Myers. 1994. Coral reef fishes. 400 pp. Harper Collins Publ., London.
- 益田 一. 1980. 魚: 海水編. 野外ハンドブック・9. 231 pp. 山と溪谷社, 東京.
- 益田 一. 1992. 海水魚. 山溪フィールドブックス⑥. 383 pp. 山と溪谷社, 東京.
- 益田 一・小林安雅. 1994. 日本産魚類生態大図鑑. 47 + 465 pp. 東海大学出版会, 東京.
- 望月賢二. 1995. テングダイ. Page 259 in 小西英人編. 新さかな大図鑑. 週刊釣りサンデー社, 大阪.
- 鍋島靖信・西座真二. 1996a. 大阪湾におけるメナガガザミ・ケブカツノガニなどの外海生物の出現と1994年の高水温と高塩分の影響 (1). *Nature Study*, 42(6): 7-9.
- 鍋島靖信・西座真二. 1996b. 大阪湾におけるメナガガザミ・ケブカツノガニなどの外海生物の出現と1994年の高水温と高塩分の影響 (2). *Nature Study*, 42(7): 3-5.
- 佐藤寅夫. 1986. テングダイ. Page 222 in 阿部宗明編・監修. 決定版生物大図鑑: 魚類. 世界文化社, 東京.
- 清水孝昭. 1997. 瀬戸内海産魚類目録. Pages 87-94 in 池原宏二編. 瀬戸内海のさかな. 瀬戸内海水産開発協議会, 神戸.
- 清水 長. 1995. 魚類の計測方法と用語の共通性について. *魚類学雑誌*, 42(1): 98-102.
- 田口 哲. 1994. 海の魚. フィールド・ガイドシリーズ13. 387 pp. 小学館, 東京.
- 横川浩治・安部享利. 1997. 瀬戸内海から初記録のミヤコテングハギ. *伊豆海洋公園通信*, 8(6): 2-3.
- 横川浩治・鍋島靖信. 1998. 瀬戸内海で分布を拡大するミドリイガイ. *ちりぼたん*, 29(1/2): 7-11.
- 横川浩治・山口敦子. 1997. 瀬戸内海から初記録のサメ類2種. *伊豆海洋公園通信*, 8(8): 2-7.
- 吉野雄輔. 1995. ダイバーのための海中観察図鑑. 167 pp. PHP 研究所, 東京.

(よこがわこうじ・あべゆきとし: 香川県水産試験場)

Abstract

First record of striped boarfish *Evistias acutirostris* from the Seto Inland Sea, Japan

Koji Yokogawa & Yukitoshi Abe
(Kagawa Prefectural Fisheries Experimental Station, 75-5 Yashimahigashimachi, Takamatsu, Kagawa 761-0111, Japan)

Striped boarfish *Evistias acutirostris* (Temminck et Schlegel, 1844) (Perciformes, Pentacerotidae), was first recorded from the Seto Inland Sea. A single adult specimen was caught by fixed shore net at the Hiuchi Sea, located in central part of the Seto Inland Sea on June 15, 1999. Since distribution of this species makes regard it as a warm water species, the obtained specimen might enter the Seto Inland Sea by chance.